

茨城県 つくば市

筑波研究学園都市

18N1037 片岡恵理

面積

283.72平方キロメートル

人口・世帯数

総人口：240,987人

世帯数：107,493世帯(令和元年10月1日現在の常住人口)

第1ステージ（都市建設期）

1963年9月 旧6町村の地域に筑波研究学園都市の建設が了解される

1980年3月 43機関の移転、新設が完了

第2ステージ（都市整備期）

1985年 国際科学技術博覧会（つくば万博）

1987年11月 4町村の合併でつくば市の誕生

第3ステージ（都市発展期）

2005年8月 つくばエクスプレス開業



開発前の筑波研究学園都市



昭和55年頃の筑波研究学園都市



平成5年頃の筑波研究学園都市



現在（平成23年頃）の筑波研究学園都市

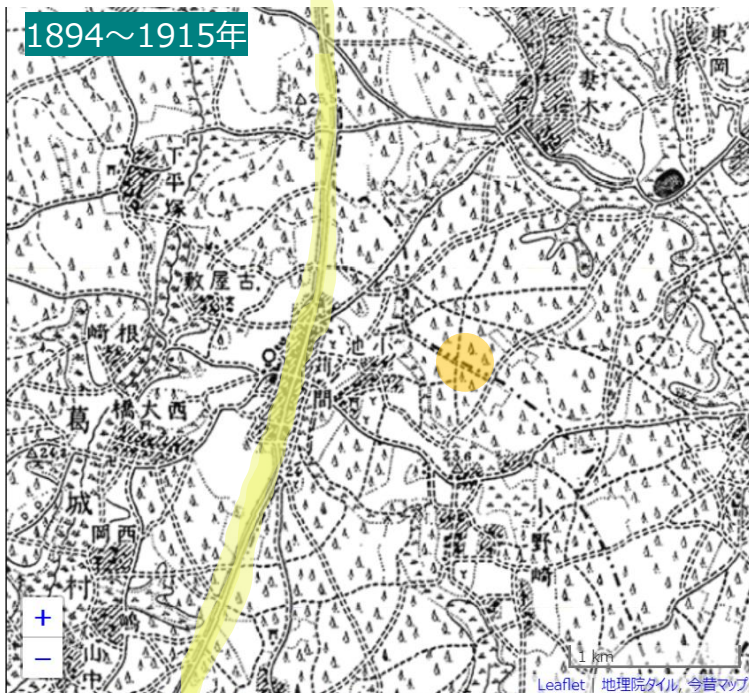


つくば市の現在の特徴

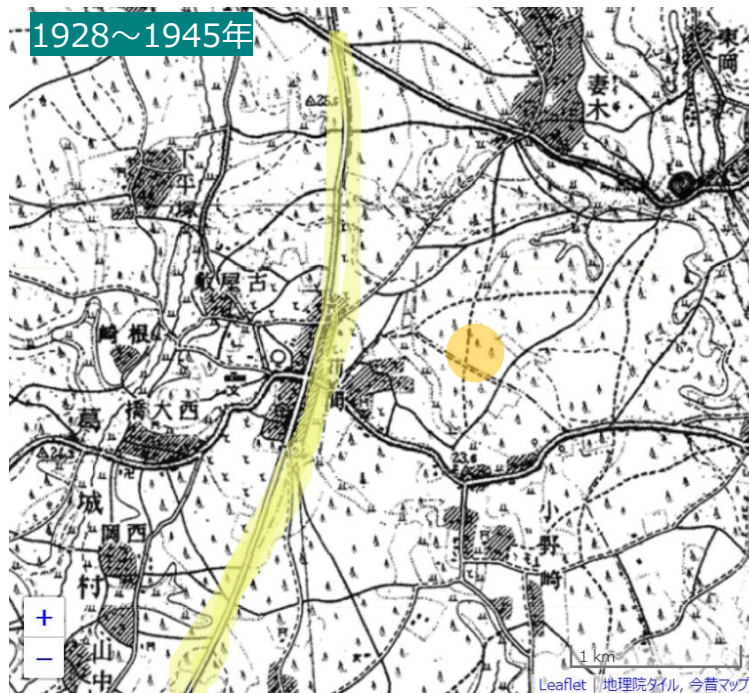
- ・ 関東の名峰筑波山を有し、また、市域の大部分は関東平野の一角を形成する、緩やかな高低差を持った広々した台地が広がっている
- ・ 一方、国家プロジェクトで計画された筑波研究学園都市という新しいまちでもある
(広幅員の大通りや歩行者専用道路+広大な面積をもつ大学や研究施設)
- ・ つくばエクスプレスの開業により、茨城県南の拠点都市として、多様な商業・業務施設の集積が進み、都心地区には高層住宅が建ち並ぶ
- ・ 随所に美しい里山風景が広がっており、一方で近代都市的な面もあり、その両面性をあわせもっている



1894~1915年

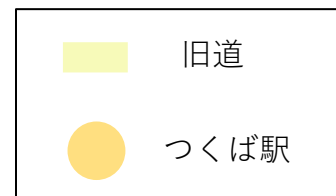


1928~1945年

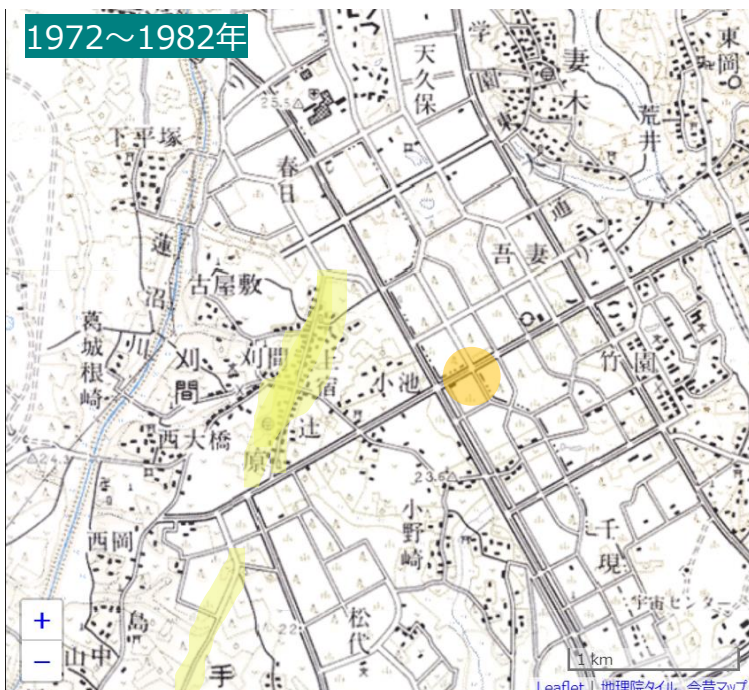


つくば駅付近を比べてわかったこと

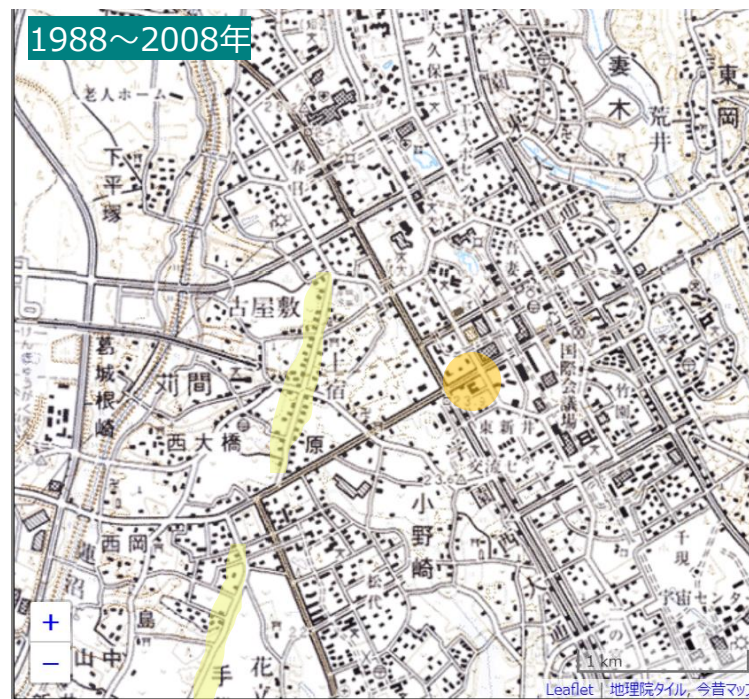
- ・ 研究学園都市ができた頃(1980年頃)から旧道が使われなくなったこと
- ・ 集落は今でも残っていること



1972~1982年



1988~2008年



現在



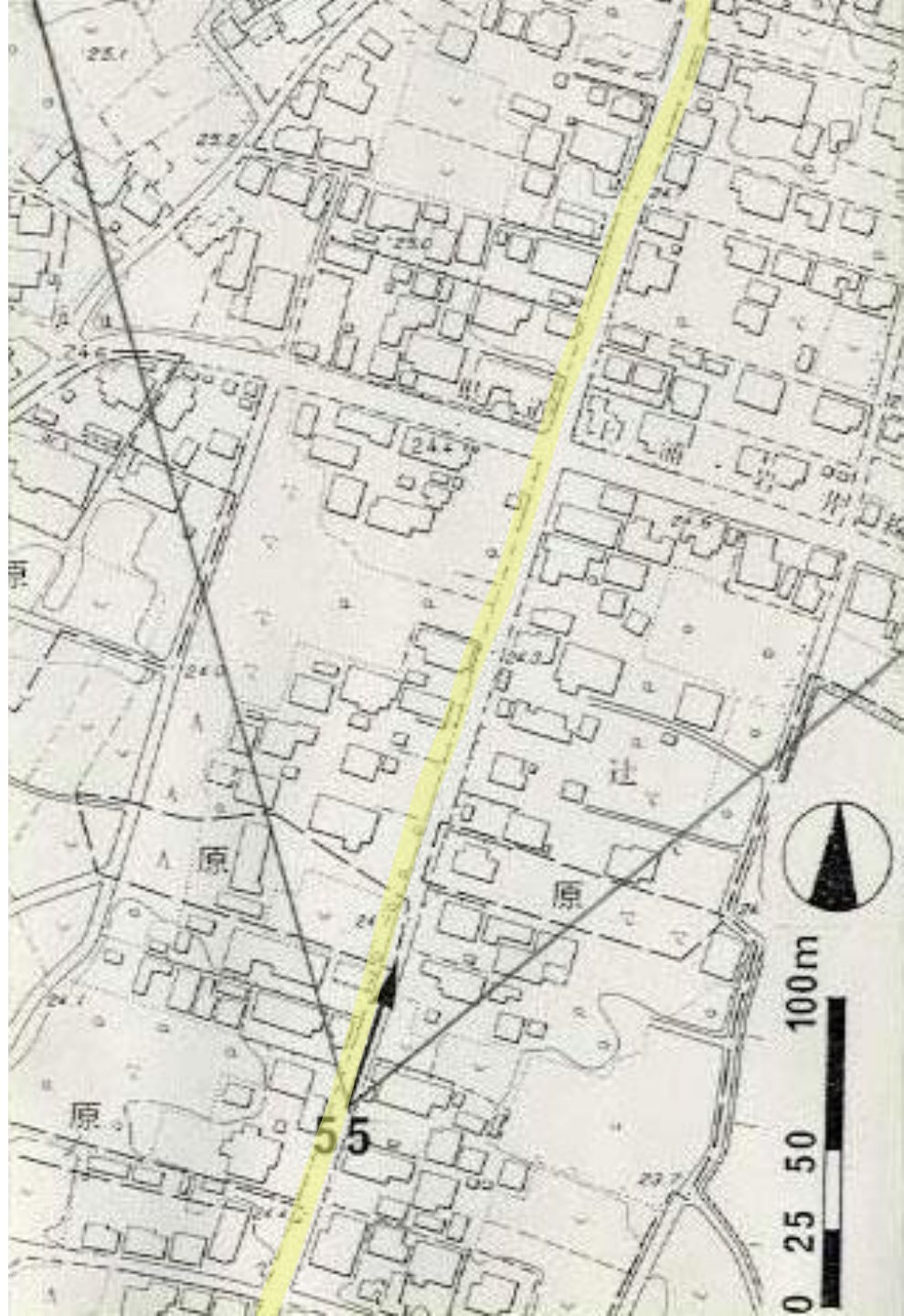
1980



1991



2006



苅間

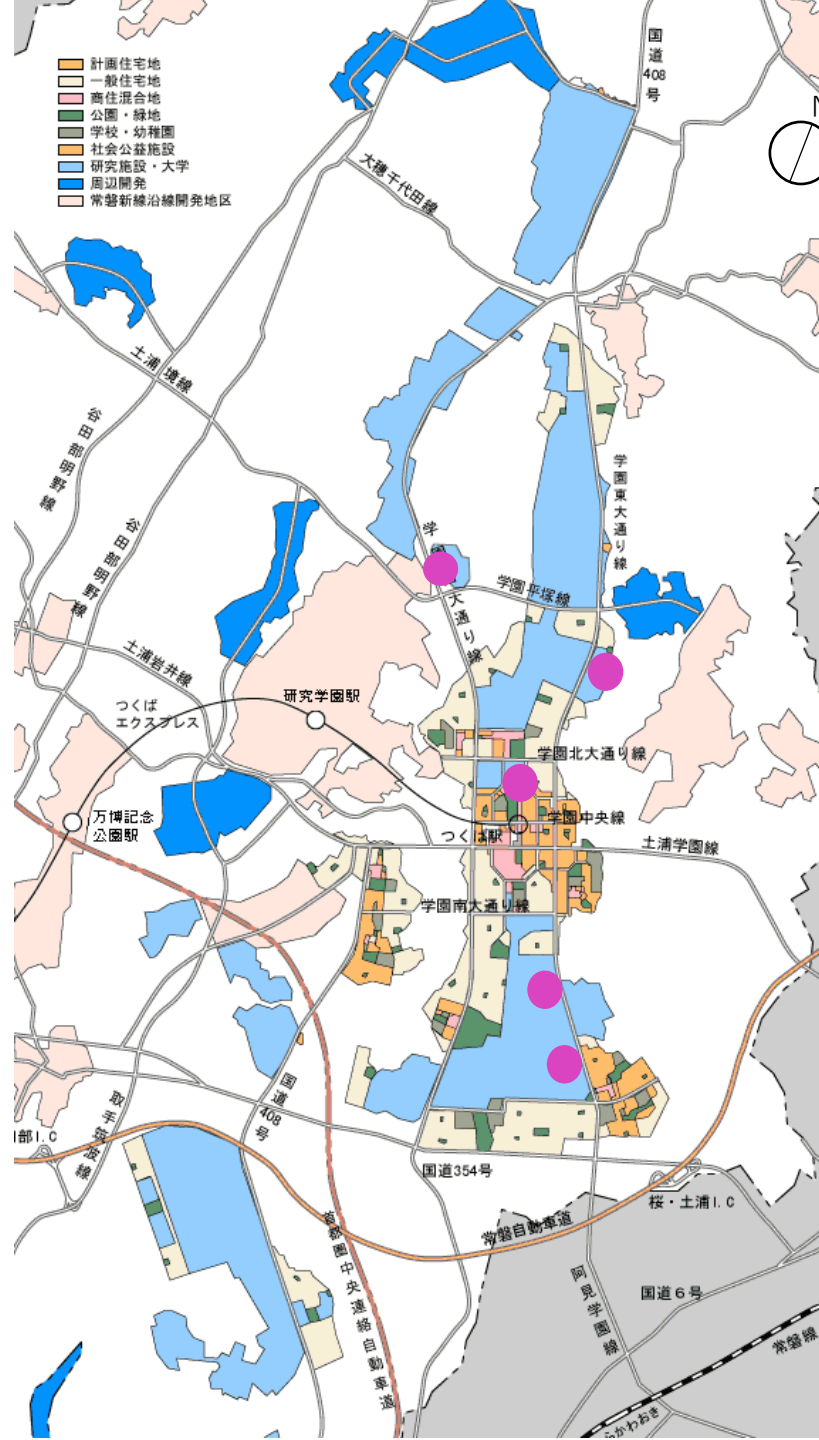
筑波研究学園都市の目的

1、科学技術の振興と高等教育の充実に対する時代の要請

東京及びその周辺から移転した国の試験研究機関と新設した筑波大学を中核として、高水準の研究と教育を行うための拠点を形成し、それにふさわしい環境を整備すること

2、東京の過密対策

必ずしも東京に立地する必要のない国の試験研究・教育機関を研究学園都市に計画的に移転することにより、首都圏既成市街地への人口の過度集中の緩和に役立たせるとともに、その跡地の適正な利用を図り、首都圏の均衡ある発展に寄与すること

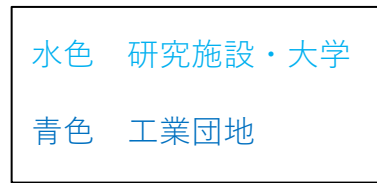


つくばサイエンスツアー

見学可能施設は約50カ所

つくば駅からは5つの研究教育施設（地図と測量の科学館、筑波実験植物園、つくばエキスポセンター、地質標本館、筑波宇宙センター）を巡る循環バス「つくばサイエンスツアーバス」が運行（土日祝日）

自由に乗り降りして見学や散策することができる



市民の生活空間



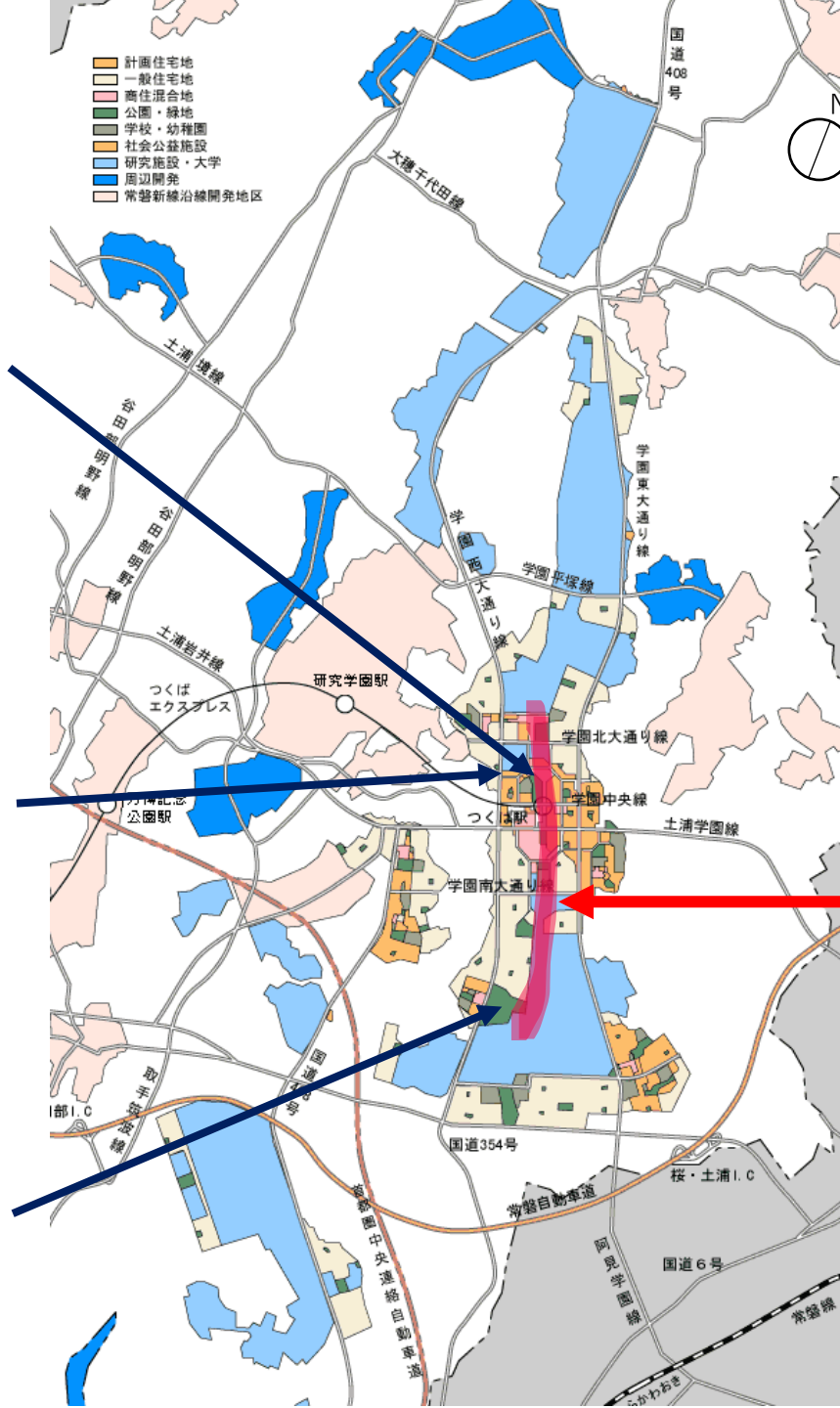
TXつくば駅前の中央公園



電線類が地中化されたTXつくば駅前



紅葉が美しい洞峰公園



筑波山



秋の筑波山



筑波梅林

多くの公演が全長48kmのペデストリアンデッキ(歩行者専用道路)で結ばれている



ペデストリアンデッキ

ペDESTリアンデッキ (つくば公園通り)

今回自転車で調査したペDESTリアンデッキの範囲

(北から南に向かって調査した)



①

団地の近くには道にベンチがあり集える場所があった



②

つくばエキスポセンターは宇宙や科学について学べる施設

近くの保育園生のお散歩コースにもなっており、小さいころから身近に宇宙・科学を学べる



③

道に沿って公園があるので道が公園の一部となっている



④

道沿いには図書館や美術館も隣接していて文化を学ぶことが身近なものになっている





⑤
駅前中央あたりにもベンチがあり憩いの場になっている

⑥
ペDESTリアンデッキから駅前のショッピングセンターへつながっている



⑦
右手にはスーパー、左手にはイベントホールがある

⑧
ペDESTリアンデッキには歩道を渡るところが2か所しかない(そのうちの1つ)

⑨
大通りからペDESTリアンデッキを見ると、道路とぶつかるところは橋が架かっていて道路を横断することはほぼないことがわかる



筑波研究学園都市がつくられたことにより、

昔からの集落や風景は残るものの、道は大胆に整備され、市民と地域の繋がりを生む手段としてペDESTリアンデッキが設けられた

移転・新設された研究所が孤立するのではなく、ツアーバス・科学を学べる施設があり市民と科学の関わりが持てる都市となった

一方、第3ステージの都市開発期を迎えて、筑波研究学園都市建設から50年経った今、第4ステージとして50年前の都市の形のから現代にあったものにしていかなければならないのではないかと思う